

[事例発表]

安全、安心、満足。 そこから生まれる信頼のため

柴又運輸株式会社
代表取締役会長 橋場之廣

会社概要

所在地	東京都江戸川区東小岩
設立	昭和38年10月
資本金	4,000万円
従業員数	150名
車両台数	70台
フォークリフト	30台
事業内容	一般貨物自動車運送事業 貨物利用運送業 国際航空貨物取扱 保管・荷役・商品管理・流通加工・引越 産業廃棄物収集運搬業

1 はじめに

当社は、関東甲信越、近畿圏に置く物流施設を拠点に、輸送・保管・荷役・在庫管理・流通加工・物流改善提案などの物流業務を包括して受託する3PLビジネスを顧客に提供しております。私達は、「安全・確実・共生」を信条に、顧客に優れた物流サービスを提供することにより社会に貢献する、とする品質方針で事業にまい進するとともに、地球環境保全が人類共通の重要課題であると再認識し、持続可能な発展をめざした循環型経済社会の構築に積極的に参画していきたいと考えております。

2 経営理念と品質目標

経営理念

・・・「安全・確実・共生」

品質目標（2008年度）

- ・・・ ① 交通・労災事故発生ゼロ
- ② フォーナイン（99.99）への挑戦
- ③ プロ意識の醸成

3 安全に対する考え方

「安全こそが、作業品質向上の根幹、利益の源泉」であるとの考え方から、「交通・労災事故発生ゼロ」を品質目標の第1に掲げて業務を推進しています。

4 事故・災害の発生状況

最近3年間の事故・災害の発生状況

	自動車事故		労働災害	フォークリフト事故 (貨物事故含む)
	道路上	構内		
2005年	6	9	2	2
2006年	3	5	1	4
2007年	1	2	1	7
合計	10	16	4	13

- ① 自動車事故は減少傾向にある。
- ② 労働災害は軽微なケガで済んでいるが、ヒヤリ・ハットが見られる。
- ③ フォークリフト作業中の事故（人身、物損、貨物）が増加している。

5 事故・災害防止のための主な取組

1. 事故・災害原因分析チェック表による分析
2. ヒヤリ・ハット体験報告
3. デジタルタコグラフ評価
 - ①安全運転評価
 - ②経済運転評価
4. ドライブレコーダによる検証
5. ワンポイント・レッスンの高度化
6. フォークリフト運転競技大会への挑戦
7. 社内顕彰制度

6 事故・災害防止のための今後の取組

1. ISO（品質）理念の浸透
 - ①事故災害発生時の管理手順の徹底
 - ②事故・災害原因分析チェック表による分析
 - ・身体の調子 ・職場環境 ・生活環境
 - ・車の状態 ・心の状態 ・道路の状態
2. 危険予知活動（荷役作業）の展開
 - ①ヒヤリ・ハット体験報告の徹底
 - ②リスクアセスメントへのアプローチ
3. 「安全作業指導員」制度の導入
はい作業主任者、積卸し作業指揮者教育修了者、フォークリフト運転業務従事者教育修了者の活用

フォークリフト事故原因分析チェック表

柴又運輸株式会社改訂版 (出典：株式会社シーエムオー)

事故発生日時	年 月 日 時 分頃	記入日	
事故発生場所		記入者	
事故現場写真	有 無	当該作業員	
事故内容 (詳細に)	(人身・物損・車輛・商品／製品)	経験年数	
		操作技能レベル	(上級・中級・初級)
		事故回数	回目

事故発生までの作業内容

- ① 始業より事故発生までの時間 約 _____ 時間 運転時間 _____ 時間
- ② 作業内容 (積み・卸・荷走行・空走行) その他 _____
- ③ 前回休日より _____ 日目、 直前休憩より _____ 時間目

作業事故発生時の状況 (該当欄に○印をしてください)

身体 の 調 子	1. 身体の部分で痛い所があった (頭・胸・腹・腰)	心 の 状 態	1. うっかりしていた
	2. 頭がぼんやりしていた		2. いらいらしていた
	3. めまいがした		3. あわてていた
	4. 身体がだるかった		4. 脇見をしていた
	5. 体が疲れていた		5. 考え事をしていた (家庭・自分・会社・他人)
	6. 風邪気味だった (薬を飲んでから _____ 時間目)		6. ぼんやりしていた
	7. ねむたかった		7. 判断を誤った
	8. その他		8. 無茶・無理・無謀だった
職 場 環 境	1. 上司に不満がある		9. 危険だと思わなかった
	2. 上司に叱られた		10. 大丈夫だと思った
	3. 作業面で面白くなかった		11. 危険に気付かなかった
	4. 同僚間に不和がある		12. 注意が不足していた
	5. 同僚と口論した		13. タバコを吸っていた・吸おうとしていた
	6. その他 (_____)		14. その他
生 活 環 境	1. 家庭に心配事がある	構 内 の 状 態	1. 人・物の行動に注意していた
	2. 前日はあまり眠れなかった		2. 人・物の行動に注意していなかった
	3. 家庭を出る時面白くなかった		3. 人・物との距離を意識していた
	4. 金銭的に悩みがある		4. 安全な距離がわからなかった
	5. その他 (_____)		5. 気象状況は (_____)
フ ォ ーク の 状 態	1. 積載方法が適切でなかった		6. 路面状況 (濡れていた・乾いていた・凍結・積雪)
	2. 積載をオーバーしていた (約 _____ t)		7. 路面状況 (平坦・昇り坂・下り坂)
	3. 機械に不具合があった (_____)		8. 速度を出しすぎている (約 _____ Km/h)
	4. 始業前点検は (確実に実行・形だけ・やらない)		9. 急ブレーキをかけた
	5. その他 (_____)		10. その他 (_____)

作業事故発生原因 (上記チェックの結果、該当欄に○印をしてください) 認知ミス・判断ミス・操作ミス・その他 (_____)

◎参考情報 : ① KYTレベル (4・3・2・1) ② SDカード取得 (有 年・無)

◎参考添付資料: 作業日報コピー・事故現場写真

[事例発表]

社会の信頼に応えるゼロ災意識の高い現場力

株式会社ボルテックスセイゲン
代表取締役社長 武井 宏

会社概要

所在地	群馬県安中市原市
営業所	千葉営業所、白河営業所、郡山出張所、東京事務所 人見物流センター、上越物流センター、横野平物流センター、 長野営業所
創業	昭和26年6月
資本金	13,950万円
年商	77億円（グループ合計：110億円）
従業員数	572名（グループ合計：1,143名）
車両台数	292台
フォークリフト	123台
事業内容	貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、倉庫業、通関業、 荷役梱包及び出荷業務請負業、産業・一般廃棄物収集運搬業
グループ会社	（8社）
URL	： http://www.vortex.gr.jp/

1 はじめに

弊社は、群馬県安中市原市を拠点とし、主に化学工業品の輸送、保管、流通加工を行っております。グループ企業を併せますと、1,000名以上の従業員がおります。私は「人」は会社の財産であると思います。だからこそ、社員一人一人が安全に今日一日過ごして欲しいという気持ちは人一倍強く、それが「安全第一主義（ゼロ災）」という信念につながっております。私たちにとって安全は最優先かつ永遠のテーマであります。

2 安全の基本方針

安全の確保は経営の根幹であり安全第一なくして企業は存続しえません。

よって「安全第一」を定着させるため、全社一丸となり関係法令等の遵守と、色々な角度から安全に対する取り組みを全員参加のもと日常にし、適切な実施・運用により効果的に安全活動を推進しております。そして「安全第一」の社内風土を作り上げることであります。

3 基本的な姿勢

平成 16 年に 10 年先を見据えて制定した企業目的の「VORTEX NEXT 10」では、企業使命に「総合物流から最適物流へ」を掲げ、基本的な姿勢を行動基準 7 則に盛り込み全社員の共通目標としております。

－ 行動基準 7 則 －

『観る・聴く・験す』

1. 我々は、「安全第一主義」に基づき、交通災害と労働災害を撲滅し、ゼロ災職場を実現する。
2. 我々は、破損・誤配・誤出荷をなくし、プロセスの改善に努めて高品質を実現する。
3. 我々は、無駄を徹底して排除し、ローコスト・オペレーションを実現する。
4. 我々は、顧客に出向き、日々情報を感知し、衆知を集めて企画し、スピーディに提案する。
5. 我々は、業界を取り巻く動向を敏感に察知し、いち早く対応する。
6. 我々は、地球環境を配慮し、ゼロエミッションを実現する。
7. 我々は、一人ひとりが具体的な目標を掲げ、実践を通じて成果を上げ、自らの成長を図る。

4 安全への取組

- ・ 社員、家族からの交通安全標語・作業安全標語の募集（平成 2 年～）
最優秀作品に選ばれた標語は毎年、弊社のカレンダーに掲載しております。また毎週朝礼時に唱和をし、安全意識を高めています。
- ・ 黒瀧山座禅修行（平成 6 年～）
事故を起こした社員を対象に黒瀧山不動寺（群馬県甘楽郡南牧村）にて、年に 3 回、1 泊 2 日の座禅研修を行っております。
- ・ KYT 活動（平成 7 年導入）
現在 45 チームが『ゼロ災』を達成する手法とし、活動においてヒヤリハット等の現場に潜むトラブル要因を出し合い、災害を未然に防ぐものであります。社員の安全の確保と顧客の信頼の獲得を目指し、全社員の安全意識の向上を図ることを目的としております。各チーム月 1 回以上の活動を実施し、品質トラブル防止に取り組んでおります。

毎月第3土曜日にはKYT委員会を実施し、活動内容が報告されます。また年1回全員参加の発表会を11月に実施しており、本年が第14回目の発表会となります。

- ・ 無事故ドライバーの表彰（平成8年12月～）
年間を通して無事故・無違反のドライバーを表彰し、更なる無事故記録の更新を目指しております。現在20年以上無事故のドライバーが5名おり、最長記録は37年を超えております。
- ・ 場内安全巡視（平成9年～）
危険要因を早期発見し是正する目的で安全衛生委員による巡視を、月毎にテーマを定め実施しています。月次テーマの確認及び、巡視で不安全行動・不安全状態をチェックし、発見事項はその場で是正指導を行い、直ぐに出来ない事項は日時を定めて是正報告をさせ、安全衛生委員会で報告させるようにしております。
- ・ 安全衛生委員会（平成9年～第3土曜日開催）
社長を委員長として、安全巡視の是正状況の報告及び前月度の交通、災害事故の報告とその対応事項の検討をしております。部門長より、当月の重点目標取り組みの報告と次月の目標の報告等、委員会に活動方針と重点実施項目について協議させます。健康面については、産業医より健康指導があります。
- ・ ISO9001認証取得（平成11年3月）
全社品質方針である「顧客の満足と信頼の獲得に務める」を達成するために、毎月実施されるISO運営会議等、社長以下全員が品質管理責任者と一体となり、品質トラブル削減目標を掲げ、日々取り組んでおります。
- ・ 高速道路走行速度社内自主規制（平成11年～）
平成15年の国土交通省による大型トラックへのスピードリミッター装着が義務づけられる前の平成11年より、弊社では高速道路走行速度を80km/hに設定し、自主規制をしております。
- ・ デジタルタコメーターの導入（平成12年9月）
全ドライバーの運転記録は月間安全運転ランキングとして集計され、現在全てのドライバーが90点以上、Aランクの結果を出しています。

《交通事故加害・被害事故の件数推移》 ※デジタコ導入：平成12年9月～

	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
加害	16	16	14	9	8	9	9	5	4
被害	0	6	9	6	14	13	9	2	6
計	16	22	23	15	22	22	18	7	10

- ・ フォークリフトコンテストの開催（平成12年～）
フォークリフトの技能レベルUPを図れるよう倉庫・包装・運輸部門の有資格者を対象に①フォークリフトの安全操作等（ビデオ鑑賞）②始業点検③運転実技を実施しています。安全品質保証部とメーカーが審査をし、優良者を表彰しております。

- ・ 安全運転同乗個別指導の実施（平成 17 年 4 月～）
指導員による個別指導を全ドライバーに対して実施しております。所定のチェック項目に基づき、100 点が取れなかったドライバーには、100 点が取れるまで再同乗指導を繰り返し行っております。
- ・ 運行前の車両安全点検・対面点呼・血圧測定
平成 17 年 7 月に自社開発の血圧アルコール点呼システムを採用しました。アルコール検知に関しましては、少しでもアルコールが検知された場合（0.00mg/L 以上の場合）には出発停止という厳しい社内基準を設けております。
- ・ 運輸安全マネジメント導入（平成 19 年 10 月）
月に 1 度推進会議、3 カ月に 1 度営業所を含めた全体会議を実施し、輸送の安全確保と向上のための重点施策の検討と運行管理者の情報交換を実施しております。
- ・ ドライブレコーダーの導入（平成 20 年 2 月）
関連会社も含めトラック・バス・タクシーの全車両へドライブレコーダーを装着し、事故・トラブルを最小限に抑え、安全管理の徹底を図っております。
- ・ フォークリフト運転者技量基準の制定（平成 20 年 9 月）
フォークリフト作業者の評価基準を設け、ヘルメットに技量シールを貼ることにより、作業者の安全意識を喚起し、貨物を安全且つ丁寧に扱うなどトラブルの防止に努めています。

5 地域・社会の一員として

- ・ 環境美化運動（昭和 61 年～）
5 月 30 日「ゴミゼロ」の日と 10 月 9 日「トラックの日」に合わせて年に 2 回、道路に日頃の感謝を込めて道路清掃を行っております。弊社のこの取り組みは平成 17 年 10 月より群馬県トラック協会県下一斉環境美化清掃として群馬県全域に広がっています。
- ・ グリーン経営（平成 18 年 9 月認証取得）
トラック運送事業と環境保全との調和を目指し、事業活動が地域社会環境及び地球環境に及ぼす影響に配慮するとともに、あらゆる環境負荷の低減及び資源の有効活用に努めることを環境方針に定め、環境に配慮した試みを行っております。

6 結びに

「安全第一主義」の理念を基本とし、社員一人一人の人生の成長にコミットメントすることが、お客様はもとより社会に貢献することであると思っております。弊社は今後も「現地・現物・現人」の情報を敏感に捉え、世の中の変化に適応した「人づくり」を積極的に実践し、従業員満足とお客様満足の両立を目指した経営、地域と生活者に向き合う経営の実現を目指して努力していきたいと思っております。それこそが「最適物流」の中身なのだと思います。